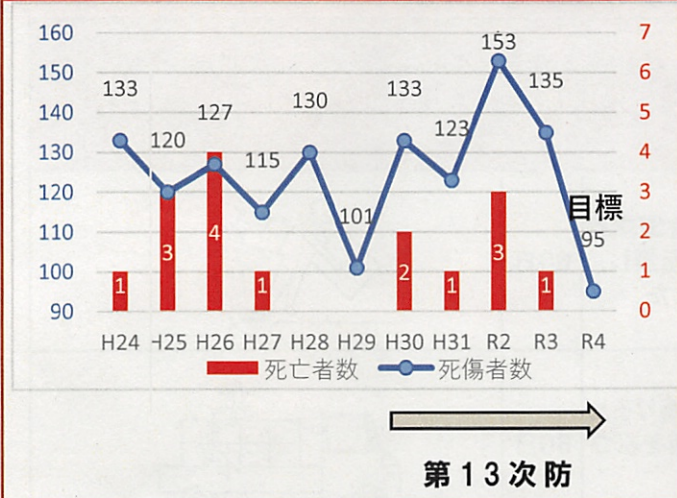


須賀川労働基準監督署管内の労働災害発生状況

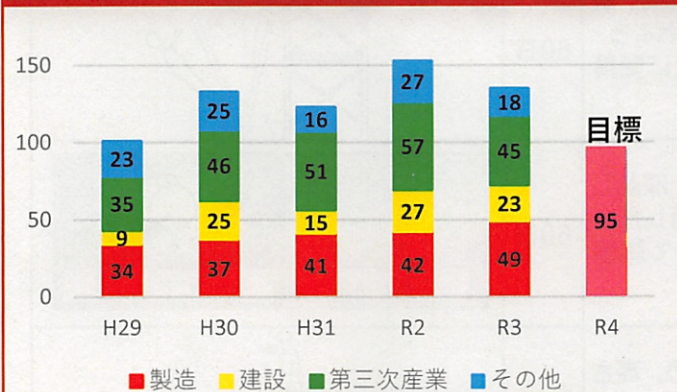


平成30年から5年間で、平成29年と比較して休業4日以上¹の死傷者数を5%減少させることを目標に掲げ、第13次労働災害防止計画の取組みを展開しています。

令和3年の死傷者数は135人で、前年より18人減少しましたが、平成29年より34人増加(+34%)しており、過去10年間においても令和2年の153人に次ぐ人数となっています。

また、1件の死亡災害が発生しています。

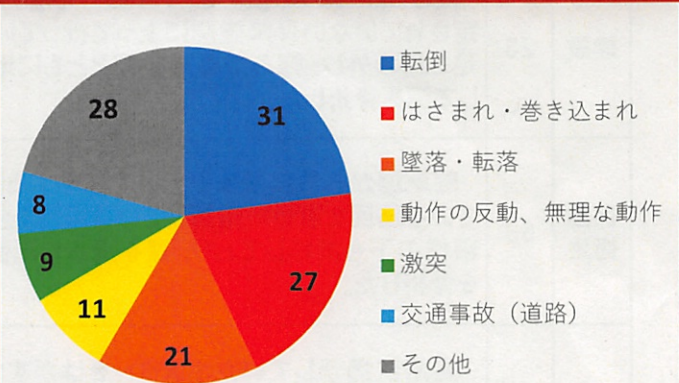
業種別の災害発生状況



令和3年の死傷者数は、製造業が49人、建設業が23人、第三次産業が45人となっています。

いずれの業種でも、平成29年に比べて増加していますが、特に製造業は第13次防期間の平成30年以降最も多い人数となっています。

事故の型別の災害発生状況(令和3年)



事故の型別では、「転倒」災害が31人と最も多く、全体の約4分の1を占め、次いで「はさまれ・巻き込まれ」災害が27人、「墜落・転落」災害が21人となっています。

これら3つの型の災害が全体の約6割を占めています。

令和3年の転倒災害発生状況は次のようになっています！

全ての転倒災害のうち、


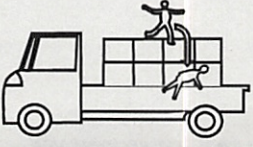
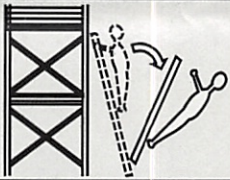


- ・事業場や作業現場の**通路**で発生したものが、**7割**
- ・午前中に発生したものが、**7割**
- ・被災者の年齢別では、**50歳以上**の方が、**8割**
- ・休業日数**1か月以上**が、**6割**

を占めています。









須賀川労働基準監督署

管内の労働災害事例

業種	年齢	災害発生状況等		
		災害発生状況	休業日数	概略図
製造	44	書類の入った段ボール箱を両手で抱えて倉庫まで運んでいたところ、倉庫入口の段差に躓き転倒し、倉庫内にあった資材に右眼をぶつけて負傷した。	60日	
製造	46	トラックの積み荷作業を終え、荷の上から降りるときに足を踏み外して転倒し、側あおりに腹部をぶつけて肋骨を骨折した。	60日	
建設	23	高さ2メートルの位置に仮設機材を積む作業を、固定されていない昇降設備に上って行っていたところ、足を踏み外し、弾みで昇降設備とともに地上に墜落して脚を骨折した。	60日	
保健衛生	56	駐車場から事務所まで歩いて移動する際、凍結している路面を避けて積雪している場所を歩行したが、積雪の下も凍結しており、足を滑らせ転倒して腰部を骨折した。	60日	
商業	61	高所に掲示していたポスターをはがすため、高さ1.2メートルの脚立の天板に乗ったところ、バランスを崩して転落し、ひざを打撲した。	60日	

労働災害防止対策のポイント・リーフレット

はさまれ・巻き込まれ	<ul style="list-style-type: none"> ・回転体などに覆いや囲いを設けましょう。 ・安全装置が有効に保持できているか点検しましょう。 ・安全な作業標準を定め、作業標準どおり作業できているか確認しましょう。 ・掃除を行う際の運転停止について繰り返し教育しましょう。 ・危険な箇所には目につきやすい色で注意表示をしましょう。 	手すり 先行工法			
転倒防止		新型 コロナ 感染症		高齢者 雇用	
交通労働災害		はしご・脚立		熱中症	